

2017年度第5回 町田市子ども・子育て会議

議事要旨

【開催概要】

日 時：2017年9月7日（木）
会 場：市庁舎 会議室 3-1

【議事次第】

- 1 開会
- 2 事務連絡
- 3 議 題
 - (1) 町田市子どもの発達支援に関する市民意識調査結果報告書について
(資料1)
 - (2) 町田市子ども発達支援計画案確認について (資料2・3)
- 4 報 告
 - ・市内3か所目の常設型冒険遊び場「谷戸池公園冒険あそび場」の開所について (資料4)
- 5 その他
- 6 閉会

【配布資料】

- 資料1 町田市子どもの発達支援に関する市民意識調査結果報告書
- 資料2 町田市子ども発達支援計画案（第一期障害児福祉計画）（第2案）
- 資料3 意見まとめ
- 資料4 市内3か所目常設型冒険遊び場「谷戸池公園冒険あそび場」の開所について

2017年度 第5回町田市子ども・子育て会議 委員出席者

子ども・子育て会議 委員

氏 名	所 属	出 欠
◎金子 和正	家政学院大学	出
○吉永 真理	昭和薬科大学	出
齋藤 祐善	町田市私立幼稚園協会	出
土橋 一智	町田市法人立保育園協会	出
藤田 義江	町田市社会福祉協議会	出
大野 浩子	NPO 法人子ども広場あそべこどもたち	出
大泉 永	町田市公立小学校校長会	出
熊坂 有美	町田市民生委員児童委員協議会	出
岩間 綾子	町田市中学校 PTA 連合会	出
豊川 達記	町田市医師会	出
澤井 宏行	町田商工会議所	欠
石井 由利子	市民	出
清水 亜希子	市民	出
白井 信昭	市民	出

◎会長 ○副会長

・備考： 傍聴者（3）

「町田市子ども発達支援計画」臨時委員

氏 名	所 属	出 欠
小林 保子	鎌倉女子大学	出
森山 知也	東京都立町田の丘学園	出
田部井 眞	(社福) ボワ・すみれ福社会	欠
酒井 恵子	町田市心身障がい児・者を守る会 すみれ会	出

2017年度 第5回町田市子ども・子育て会議 事務局出席者

氏 名	所 属
三橋 薫	子ども生活部部长
田中 隆志	子ども生活部子ども総務課課長
佐藤 智恵	子ども生活部児童青年課課長
押切 健二	子ども生活部保育・幼稚園課課長
鈴木 亘	子ども生活部子育て推進課課長
田村 裕	子ども生活部子ども家庭支援センター長
山之内 敦郎	子ども生活部すみれ教室所長
永野 修	子ども生活部大地沢青少年センター所長
櫻井 敦	地域福祉部障がい福祉課課長
河合 江美	保健所保健予防課次長兼課長
金木 圭一	学校教育部指導課指導室長兼課長

子ども総務課事務局：本吉 仁志、吉田 織子、石川 浩二

【議事内容】

■開会

子ども総務担当課長：始まる前に、遅刻・欠席の連絡についてです。まず、澤井委員と田部井委員から欠席の連絡が入っております。また、清水委員から3、40分遅刻するという連絡が入っております。会議は、半数以上出席しておりますので、有効に成立しております。また、今回も会議の運営のために株式会社地域総合計画研究所が参加しております。議事録作成のために録音等させていただきますので、予めご了承くださいと思います。また、会議は2時間程度を目安に進めていきたいと思っておりますので、ご協力の程よろしくお願いたします。今回はマイクを用意しておりますので、真ん中のボタンを押して発言いただくようお願いいたします。本日、傍聴の方が3名お見えになっております。特に異議等が無いようでしたら入室していただくかと思いますが、いかがでしょうか。

一同：異議なし

子ども総務担当課長：傍聴の方、入室をお願いします。傍聴の方も入室されましたので、これから第5回子ども・子育て会議を進めさせていただきたいと思っております。それでは資料の確認をさせていただきます。

■資料の確認

[資料1～4の確認]

子ども総務担当課長：今回の会議で、素案を確定させていただきたいと思っておりますので、文言等について何かご意見があれば、その場で、「こういう表現でどうでしょうか」ということで、ご意見をいただければと思います。それでは、金子会長、よろしくお願いたします。

■議題1 町田市子どもの発達支援に関する市民意識調査結果報告書について

金子会長：早速議題に入りたいと思っております。事務局から説明をお願いします。

[資料1の説明]

金子会長：ただ今のご説明について質疑等がありましたら、お名前と所属を言って発言し

ていただければと思います。

石井委員：主な3つの結果について紹介していただきましたが、その中で、P15の問19についてです。『特別支援学級または、特別支援学校に在籍している人が「地域住民などからの理解」を選択した割合が高かった』となっていますが、単純集計のP43を見ると、問19「地域社会の一員として生活するために必要な支援」の各項目について、特別支援学校等に在籍しているかは、クロス集計の結果では確認できません。他の項目でも、差が大きいかがわかるようなグラフを載せた方がよろしいのではないのでしょうか。この項目だけを載せている理由はありますか。

地域総合計画研究所：お手元の資料は、単純集計のすべてと、詳細に分析したものについては特徴的なものを提示させていただいております。

石井委員：P15の真ん中に、問19の全項目に関する単純集計を載せていますよね。その下に、地域住民などの理解だけではなくて、他の全項目に関しても分析したものを載せて、その中で特に地域住民からの理解の割合で、差が大きかったとするべきではないのでしょうか。

地域総合計画研究所：紙面上の都合や分かりやすさも考慮して、分析の結果は特徴的なものをピックアップするようにしておりますが、もし、必要であれば他の項目を追加することは可能です。

石井委員：特徴的かどうかは、この資料を作成した人は分かるかもしれませんが、この資料だけを見た人はそれが特徴的かどうかわからないので、そうすると、資料を作成した人の主観が入っているのではという疑いの余地があるのではないのでしょうか。

地域総合計画研究所：そうなりますと、他の問に関しても分析結果をすべて示すことになります。紙面上の都合と、分かりやすさを優先させていただいておりますが、もし問19だけは、他の項目との差を確認する必要があるということでしたら、提示させていただくことは可能です。

石井委員：主な3つの結果と先ほどの資料説明でおっしゃっていたので、問19が主な結果の1つであれば、具体的に分かるようにするべきではないかと思いました。

金子会長：事務局は今のご意見についてご検討をお願いします。他にいかがでしょうか。

吉永副会長：2点です。1点目は、P2のヒアリング対象機関ですが、人数は示す必要はないのでしょうか。各機関1名と考えればよろしいのでしょうか。2点目、P4の「(3) 地域社会とのつながり」が、他のところに比べて文章の量が少ないので、他の項目の量と

のバランスを考慮して追記して欲しいです。

地域総合計画研究所：実際には、各機関から代表として1、2名ご参加いただきました。

金子会長：1名と記載すると、1人の個人の意見として捉えられる可能性があると思います。機関の考え方というのであれば、今の表現でよいと思います。

齋藤委員：根本的な話ですが、計画のバックデータとして公表されると思いますが、どのような形態での公表を想定されていますか。例えば、計画の後ろに付くのか、あるいは、ウェブで公開するのか、など、どのような方法を想定されているのでしょうか。

子ども総務担当課長：確定した段階で、市のホームページに子ども・子育て会議の議事録を載せているページがありますが、そこでデータを公表します。

齋藤委員：子ども・子育て会議の下にどんどん追加されるのでしょうか。おそらく、子ども・子育て会議の議事録まで興味を持っているのは、相当専門的な方だと思います。計画案が確定されると、別のページになると思いますが、そのバックデータとして取り扱うようにして頂きたいです。当事者にとって非常に参考になるデータだと思いますので、子ども・子育て会議の下だけでなく、計画とセットにして載せる方法についても考えていただきたいと思います。

子ども総務担当課長：計画案と同じページにデータを載せる形を予定しております。

藤田委員：ヒアリングで中央学童保育クラブを選んだのは、直営なので少しがっかりしたのですが、もう少し幅広く考えていただいた方がよかったのではと思いました。

酒井委員：感想ですが、関係機関への調査で、P59に小中学校へのアンケートの結果が載っていますが、回答数が少なかったのが少し残念だったと思いました。P60で、特別支援学級があるか無いかの他に、不明未記入が1件あるのはどのような意味でしょうか。おそらく未記入だと思いますが、そうだとすると、回答していただいた方の意識の低さに少し残念な気持ちになりました。回答も、小学校が42校のうち24校、中学校の20校のうち8校ということですが、中学校の場合、支援学級があるのは9校のはずですので、支援学級があるにもかかわらずこういうアンケートに答えてもらえなかったのは、保護者としては残念だと思いました。

白井委員：前回もこのまま放置するのかと質問しましたが、何かアクションは起こしていただいていますでしょうか。また、P1の調査概要の調査方法で、保育園や小学校、中学校の配布数を明記すれば、おのずと何%が答えたかが分かると思いますが、そういうことはしない方がよいのでしょうか。

すみれ教室所長：小学校何校のうち何校、幼稚園何園のうち何園というように、明確に記載していませんが、わかりやすさと整理の仕方としてこのような形で示していますが、より正確な情報を示した方がよいかどうかは議論いただきたいです。

白井委員：そういう方向性だということであれば、それで構いません。

石井委員：ヒアリングについては、保護者のアンケートの自由回答のように内容を具体的には書いていないですが、それは書く必要はないでしょうか。具体的に意見を載せた方がよいと考えていますが。

子ども生活部長：当初の時にもお話ししましたが、ヒアリングはアンケート調査の補足として位置付けておりますので、アンケートを補足する結果として記載しました。

石井委員：ヒアリング調査で聞いたことすべてを記載する必要はないという事でしょうか。

吉永副会長：今、記載されているページの下部のものがヒアリング結果だと思いますが。

石井委員：これが結果なのはわかりますが、書いている人の主観が介入された文章のように読み取れてしまいます。

吉永副会長：ヒアリング調査の結果なので、対象機関の方から聴取した認識や意見なのではないでしょうか。

石井委員：文章の表現を、「～が分かりました」とすると、聞いた人の主観であって、客観性がないような感じがします。

金子会長：質問事項はすべての機関に同じように聞いていますか。

地域総合計画研究所：すべての機関に全く同じ内容ではないですが、共通事項としてはこの内容、機関ごとに違う項目はこのような内容を聞きます、ということは前回の会議でお示ししていて、それをもとにヒアリング調査を行っております。

金子会長：ヒアリングされた人の言葉をそのまま書くとリアリティは出てくるかもしれませんが、内容を変えない範囲で第三者の視点でこのように書いた方が、個人的には読みやすいと思いますが、おそらくその点を考慮してこのように整理しているのかと思います。

地域総合計画研究所：はい、その通りです。

金子会長：調査機関がこのようにまとめましたという報告書ですし、また、ヒアリング調査は数値として集計できるようなものではありませんので、今の表現で無難だと考えますが、いかがでしょうか。

豊川委員：このような書き方で妥当だと思います。

石井委員：分かりました。

金子会長：小林委員は、いかがでしょうか。

小林委員：一般的なまとめ方として問題ないと思います。

■議題2 町田市子ども発達支援計画案確認について

金子会長：資料の説明をお願いいたします。

すみれ教室所長：説明の前に訂正が4か所あります。P11の上段で、2012年の数値を記載してから2016年の数値を記載していますが、他の項目の内容と合せて、2016年の数値を先に記載する形に改めさせていただきます。P20の(1)で「30か所で行っています」を「30か所あります」と変更させていただきます。P34「まちだ子育てサイトや母子健康手帳アプリの活用」の内容の部分で、母子健康手帳アプリが「」で囲われていないので、修正します。P55「学童保育クラブ事業」の内容の最後に、「全員を受け入れます」は利用者の目線になっていませんので「全員が利用できます」と直します。誤字・脱字のチェックは進めていますので、体制に影響のないような訂正については事務局でさせていただくということをご了解いただければと思います。

[資料2・3の説明]

すみれ教室所長：今回お示しした第2案は今日の議論を反映したうえで、12月に素案を公表し、パブリックコメントを実施いたします。パブリックコメントの実施に際しては、12月1日号の広報で周知させていただきます。実施期間は2017年12月15日から2018年1月11日までです。パブリックコメントの結果を反映した計画案を、2018年2月に町田市子ども・子育て会議から市長に答申していただきたいと思います。3月には計画を完成し、それ以降に議会での報告や市民に対する広報を進めさせていただきたいと思います。

金子会長：ご意見のある方はお願いします。

大野委員：P31「冒険遊び場事業」で、「子どもたちの自発的な思いに従い遊び」という文言を追加して欲しかったのですが、可能でしょうか。「自分の責任で」というのは、自己責任と捉えかねないので、表現が強いと思います。また、「挑戦」の前には「様々な」などの文言を入れた方がよいと思いますが、いかがでしょうか。

金子会長：何か例文はありますか。

大野委員：意見にも書きましたが、「障がいの有無に関わらず、その子のありのままを受け止められ、子どもの自発的な思いに従い、自然の中で様々な遊びや体験、人との交流

を通し、子どもたちの感覚が開かれ成長できる場」と、こちらのスタッフで考えて出していますので、全部ではなくても最も大事な部分である「子どもの自発的な思いに従って遊ぶ」という内容は入れていただきたいです。

金子会長：他に何かご質問等ある方いらっしゃいますか。私から1点ありますが、P31「子どもセンター事業」で、「キャンプやスポーツなど」となっていますが、自然体験や野外活動などの表現が文科省などで使われています。キャンプではなく、自然体験という表現が適切かと思いますが、変更可能でしょうか。

児童青少年課長：そのように変更します。先ほどの大野委員の意見につきましても、「子どもたちが自然の中で自分の責任で自由に遊び」の後ろに「また、子どもの自発的な思いに従い」と追記します。「挑戦」の前には「様々な」と追記します。

齋藤委員：インクルージョンについてですが、入れて頂いてありがたいですが、資料3の意見に対する事務局の提案で、今回の計画を子育て施策に位置付けたのがインクルージョンそのものなのだとすることであれば、その旨を計画書にしっかり記載した方がよいのではないかと思います。追記は可能でしょうか。

すみれ教室所長：そのことを踏まえてP2の最後に記載しております。

齋藤委員：資料3の事務局提案の文章を、目的の方にもう少し入れ込んだ方がよいと思います。「障害児福祉計画」を「子ども・子育て施策」と位置付けた自治体はほとんどなく、町田市としてインクルージョンを目指す姿勢を表したものと考えています。こちらの説明が非常にわかりやすい説明だと思いますが、目的に入れる事はできませんか。

吉永副会長：他にはないということで、入れた方がよいと思います。

すみれ教室所長：インクルージョンがこの計画全体の基調に流れるものとしては受け止めさせていただいていますが、言葉が共通の言語として定着しているかどうかの判断が難しいところであります。姿勢としては示していますが、表現としてはこの程度で示した方がよいのではと思っております。

齋藤委員：この言葉が定着していないから載せられないということでしたが、定着させるためにこういう計画を含めて、行政が関与して作るのではないのでしょうか。

すみれ教室所長：他の自治体の状況は再度確認する必要がありますが、もし議論していただければ追加は可能です。

金子会長：その点につきましては、こちらからも以前お願いしました。インクルージョンの言葉の意味など、もう少し強調して記載してもよいのではと思います。

齋藤委員：ぜひ検討していただければと思います。別件で、我々保育園・幼稚園を運営している立場から、発達支援について最も身近に感じている内容が、調査結果報告書 P4 の上の四角の一番下の項目ではないかと思います。相談しやすい専門機関との連携が最も必要とされていることが明確に出ています。これがどうことかという、例えば、すみれ教室も含めて色々な機関に相談をしてもウェイティングの期間が長くなるケースが多く、そのような実態が数値として表れていると思います。数カ月から半年くらい長くなるケースもあります。そのような状況で、計画案の P58 「出張相談事業」の目標となっている出張回数がそれほど多く設定されていないのですが、今回の調査で明らかになった問題を解決するためにこのような施策が設定されると思いますが、数値が変えられるかどうかは分からないにしても、調査で明らかになった問題を解決するための施策が盛り込めなかった理由について教えてください。

すみれ教室所長：出張相談につきましては、スケジュールを調整してできるだけ早めに対応するようにしておりますので、待機する期間が数か月にはならないようにしている認識でございます。目標としている数値は、概ねこの程度の数値でよろしいかと思っております。また、希望がないときには、子育て広場に出向くような形で別の事業も併せて対応しておりますので、その中で解消できればと思います。

齋藤委員：認識されていることは、現場とはずいぶん違うと思います。実際何か月も待機し、結局あきらめて他のところに相談をお願いしているのが現実ですが。

すみれ教室所長：現在、1か月以内には何うようにしております。ただ、似通った事業として保育所等訪問支援事業がございますが、こちらは障害児通所支援の枠組みの中で行うサービスではありますが、少し調整が入ったりケアプランのようなものを作成したりするような様々な前段があるので、遅くなることもありうると思います。今のところ出張相談については、比較的速やかに対応しています。

齋藤委員：障害認定等も含めた時に、見に来ていただきますが、このような場合に相当待っています。何か認識違いでしょうか。

すみれ教室所長：すみれ教室が保育園・幼稚園さんからファックス等でご依頼いただきまして、それに対応して出かけていることについては、比較的スムーズに流れておりまして、件数も急増ではありませんが上昇してきています。そのような現状を踏まえてこのような目標値を出させていただいております。

齋藤委員：他の所管の違う事業の事でしたら、申しわけありません。

金子会長：他に質問がある方お願いします。

森山委員：P35で、障害福祉サービスが子どもも使えますという事が載っていますが、短期入所は入らないのでしょうか。子どもの短期入所が可能な施設が少ないのであれば、そのような記載は必要ないでしょうか。また、障がい福祉事業計画をこの計画と並行して計画策定していくと思いますが、その旨も記載した方がよいと思いました。P44「特別支援教育巡回相談員による支援」の目標に、「実施」と書かれていますが、どのように実施していくのかももう少し具体的に分かるとよいと思います。特別支援学校はコーディネーターが配置されています。小中学校はコーディネーターが指名されていますが、学級担任と兼務したりしており、なかなか自由に動けないというのが現状です。そこで、巡回相談員による支援を活用し、負担軽減ができるような教員配置ができればと思っております。

指導室長：教員の配置は東京都が決めるなかで配置をしていくので、負担軽減につきましては、東京都の教育委員会とも掛け合っていかなければと思います。巡回相談につきましては、「実施」という形で記載していますが、おおむね150件前後がここ何年間の数値ですので、数値目標ではなく、今後件数の増加などに対応しながら実施していくという意味で「実施」と示しています。

金子会長：P35の短期入所に関する意見に関してはいかがでしょうか。

障がい福祉課長：サービス内容が一部抜けているものがありますので、精査が必要かと思えます。短期入所は追記します。

森山委員：障害福祉サービスについては、事業計画の方で計画を立てますという説明も、どう進めるのかと疑問に思う方もいらっしゃると思いますので、入れた方がよいと思います。

すみれ教室所長：短期入所については、障がい福祉課の事業計画として目標を設定するようになっていますが、先ほどご意見いただいた形でこちらにも記載させていただきま

す。

大野委員：P26、P27の施策の体系で、Ⅲ-1「人と人が関わりつなげる場をつくる」にも「冒険遊び場」が該当するのではないのでしょうか。

すみれ教室所長：この場で皆様のご意見が固まれば、再掲するのは可能です。

児童青少年課長：再掲は可能ですが、他の冒険遊び場の状況を見ますと、まずは、「Ⅰ-1-（1）豊かな人間性や社会性を育む場」にしっかりと載せて、Ⅲについては、他団体

の状況を見た上で再掲を検討させていただいてもよろしいでしょうか。

大野委員：分かりました。

小林委員：P44は「大人になっていく力」に含まれる内容として位置づけられていると思いますが、障がいのある方の場合には成人への移行がとても大事ではないかと思います。P3の図を見ると他の計画とも連携していることが分かりますが、P44の「施策の方向性」にも、進学だけでなく「成人への移行期も含め」という文言が入った方が、この計画が子どもへの支援計画であり、他の計画とも連携していることが伝わりやすいのではないかと思います。いかがでしょうか。

すみれ教室所長：追記します。

金子会長：具体的な文言案をお願いします。

小林委員：「進学などによって支援が途切れることがないように情報を確実に引き継ぐなど、各機関が緊密に連携して、成人への移行期も含め、切れ目のない一貫した支援体制を整えます。」でいかがでしょうか。

すみれ教室所長：分かりました。

白井委員：P31「子どもセンター事業」で、障がいの有無で人数を把握しているのかが分かりませんが、「障がいのある方も参加できる」ということが大事だと思いますが、今の文章では読み取れないと思いました。また、指標となっている利用者の満足度は全体の満足度で、全体の満足度が上れば、障がいのある方の保護者の満足も上るとみてもよいのでしょうか。

児童青少年課長：障がいの有無での人数は把握しておりません。登録すればどなたでも利用可能ですが、細かい現状は分かっておりません。満足度につきましては、推測ではありますが、全体的に満足度が高くなれば、少なくとも満足と評価する方が増えていくと考えられるのではないかと思います。

白井委員：子どもセンターの事業に、どなたでも来てもいいですよと積極的にすみれ教室などで宣伝すると、より利用者が増えると思います。

児童青少年課長：子どもセンターの事業は、子ども関係の部署には少なくとも情報は伝えております。また、近隣の学校等にもお知らせを配布させていただいております。

白井委員：P31の「障がい児スポーツ教室」の目標値は36回をキープするのが大事でしょうか。ニーズとして増やしていく必要はないでしょうか。

障がい福祉課長：現状を踏まえた数値となっております。

白井委員：P32で「第5次町田市障がい者計画」が載っていますが、大事な内容だと思いますが、この場所に載せている理由はありますか。

すみれ教室所長：理念として共有すべき内容だと考えており、最初の方に載せたほうが適切かとも考えましたが、第4章の作りから今の位置になりました。

白井委員：分かりました。P40「通級指導学級巡回指導の実施」で「教員」と書いた方が分かりやすいと思います。また、目標数値で中学校が遅れているのは何か意味があるのでしょうか。

指導室長：東京都の方針として、小学校が先行的に始まってから、中学校がその後始まるという形になっておりますので、それに準じて設定しています。

白井委員：分かりました。ここに、先ほど町田の丘学園の方がおっしゃっていましたが、町田の丘学園の巡回指導が入っていないというのは、管轄が東京都だからということでしょうか。

指導室長：後方支援として、町田の丘学園からは、町田市における小中学校の特別支援教育に対して支援を受けています。

白井委員：分かりました。P65「子育て支援ネットワーク会議」は小さいお子さんの事だと思いますが、小中高のネットワーク会議はないのでしょうか。

子ども家庭支援センター：子育て支援ネットワーク会議に参加されている方は、保育園・幼稚園、小学校、中学校となっております。

白井委員：分かりました。P71「交流及び共同学習の推進」で、「35・2」は何の数値でしょうか。

指導室長：それぞれ、小・中学校の数値です。

白井委員：足りなくないでしょうかという質問でした。最後に、保護者アンケートで、家族の理解がないことで困っているという意見があって、すごく深刻な現状だと思います。施策の中に関連するものはありますか。

子ども総務課長：P73で理解促進事業があります。地域や企業の方も含めてですが、もちろん保護者の方にも理解を深めていただいて、地域で受け入れやすい環境をつくっていくという事業でございます。

金子会長：調査結果報告書のP28③の4つめの現状に対応した計画はどれなのかというのが、白井委員のご質問ですが、いかがでしょうか。

すみれ教室所長：施策の体系図がP26、P27にあります。目指す姿3の「きめ細やかな支

援が必要な家族を支える」に該当する内容かと思えます。

金子会長：P65の施策の方向性がそれに対応したものとなっているのでしょうか。

指導室長：先ほどのP71の件ですが、特別支援学級は固定と通級があります。こちらの数は固定学級がある学校の数です。コミュニケーション教室や通級の数は入っていません。

白井委員：目標数値に「2」となっているのは、自分の学校に設置されていない学校のうち、2校だけが交流を行っているということでしょうか。

指導室長：未設置学校でも、近隣にあるところを利用して交流を行っています。

土橋委員：P49「地域子育て相談センター事業」で、指標は増設型のみを対象としていますか。

子育て推進課長：その通りです。

土橋委員：Ⅰ型、Ⅱ型は想定されていないということでしょうか。

子育て推進課長：現状ではそのようにしております。

土橋委員：そうすると、Ⅰ型とⅡ型はすみれ教室と連携が取れないようなニュアンスに捉えられるのではないのでしょうか。

子育て推進課長：実態は、相談に乗らないということではなく、計画上はあくまで増設型を想定しているというだけです。

土橋委員：P34「マイ保育園事業」もⅠ型、Ⅱ型も実施しているのに、数値目標的にⅢ型とⅣ型だけに設定している。どういう意味があるのでしょうか。

子育て推進課長：実際まだ行われていない園もありまして、どこまでやっていただくのかというのと、新設園が今後どのくらい作っていくのかが分からない状況ですので、実際計画上ではⅠ型、Ⅱ型を併せた数字を載せるのは難しく、ある程度数字が固まっているⅢ型とⅣ型の数値を載せております。

土橋委員：分かりました。

豊川委員：P74の「町田市子ども憲章」を前の方に配置するのはいかがでしょうか。

すみれ教室所長：そのようにいたします。

清水委員：資料2のP38下の利用状況と量の見込みの表の見方が分かりにくいので、説明していただけますか。

すみれ教室所長：2016年までは実績を記載しています。上段は利用している実人数、下段は、その人が何日利用しているかをトータル何人日という数値として記載しています。

清水委員：「人日」の単位は一般的に使われる単位でしょうか。

すみれ教室：国が示している計画の中に使われている単位ですので、説明を追記します。

清水委員：放課後等デイサービスが、2020年から1万人を超えるという事は非常にインパクトがありますが、これと紐づいている施策はありますか。

すみれ教室：民間の事業者も含まれていますので、主に質を低下させないための取組を施策として反映させていただいています。P59の下の枠に記載しています。

■報告

[資料4の報告]

土橋委員：谷戸池公園冒険あそび場は、動線的にバスで来ることを想定されていますか。

駐車場も用意されていますか。

児童青少年課長：駐車場はございません。駐輪場はあります。バスから降りて歩いて来ていただくことは可能です。

吉永副会長：プレーリーダーは運営委員会の方が行いますか。

児童青少年課長：運営委員会の方の他にも、プレーリーダーの養成講座がありまして、地域の方で講座を受けて頂いている方もいらっしゃいます。

吉永副会長：プレーワーカーと運営のための方を分けるような配慮も必要かと思います。

児童青少年課長：運営委員会はどう運営していくかを検討する方、子どもたちとの遊びの計画を立てたりする方など、色々な役割の方がいらっしゃいます。また、プレーリーダーもかなりの人数の方にプレーリーダーとして参加していただけていると思っております。

大野委員：人数が多いという事は、入れ変わりが激しいという事でしょうか。現場には軸となるメインのプレーリーダーが必要です。いつも同じ人がいることは、安心感を与えます。そうしないと子どもも近所も落ち着かないと思いますがいかがでしょうか。

児童青少年課長：プレーリーダーの人は多ければ多いほどよいと思っております。ただ、毎日どう人を配置するかは運営委員会で決めていくと思いますが、もちろんその点も考慮して決めていくと思います。多いといっても何十人という事ではないですが、できれば多くの方に関わって頂きたいと思っております。

■その他

子ども総務担当課長：その他の案件は特にございませぬ。

金子会長：それでは進行を事務局に戻します。

子ども総務担当課長：長い間ありがとうございました。今日頂いた内容を反映させていただき、皆さんに確定版をお送りさせていただきます。次回の会議は10月17日(火)今日と同じ場所となります。

■閉会

以上